

エネルギー政策見直しに 市民の声を

2018年4月7日

国際環境NGO FoE Japan



エネルギー基本計画の見直し

- 2002年 エネルギー政策基本法制定

12条に、エネルギー基本計画策定について規定。

・ ・ ・ 少なくとも三年ごとに、エネルギー基本計画に検討を加え、必要があると認めるときには、これを変更しなければならない。

- 2003年 エネルギー基本計画 **現状の議論で無視されている**

- 2007年 第二次

- 2010年 第三次

- 2014年 第四次

- 2017年度 第五次（予定）

2011年「基本問題委員会」

2012年夏「エネルギー・環境に関する国民的議論」

- パブリックコメントだけでなく様々な手法による議論
- 「国民の過半は原発をゼロにしていくことを望む」とまとめられる

2012年9月「エネルギー環境戦略」

- 2030年代の原発ゼロを明記

議論のプロセス

- 「第四次エネルギー基本計画（2014年）」には、「国民各層とのコミュニケーションと理解の深化」とあるが・・・
- 現状、積極的な民意反映の意図は見えず。
- 審議会のあり方も問題。

	2010年	2012年	2013年	2017年
審議会名	総合部会	基本問題委員会	(総合部会→) 基本政策分科会	基本政策分科会/ エネルギー情勢懇
情報公開 審議会傍聴 ネット中継	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
メンバー構成 批判的立場の委員	2/13程度	8/24	2/13	1/18
市民の参加 意見聴取会 パブコメ 当事者の参加 その他	○ ○ × ×	○ (11か所) ○ 一部 (福島) ○ (討論型世論 調査、各地での 自主公聴会等)	× ○ × ×	? ○ × ?

2012年「国民的議論」のプロセス

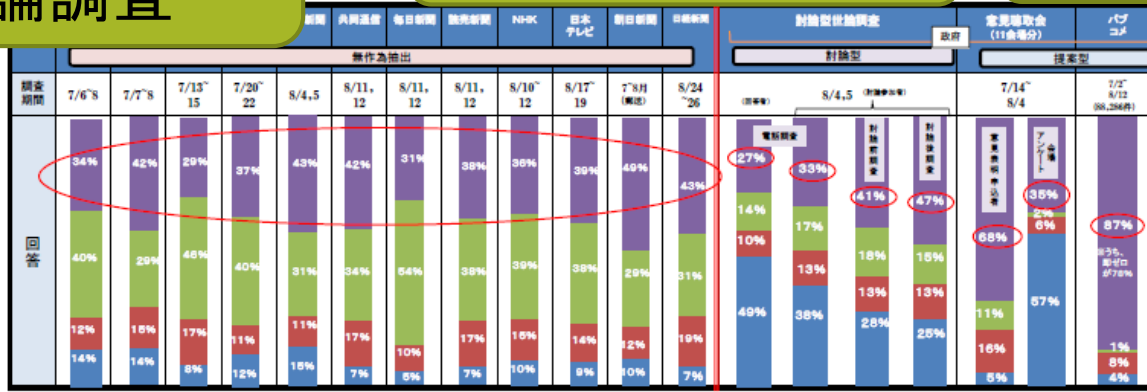
審議会

3つのシナリオ

マスメディアの
世論調査

討論型世論調査

意見聴取会



パブコメ

各地での
意見交換

団体等の
提言

マスメディアの世論調査
3~5割。最も支持を得ているケースと、
15シナリオの次というケースあり

討論型世論調査
討論を経た後に支持
上昇。討議後5割

意見聴取会 / パブコメ
7-9割支持。
即ゼロも多い。
福島県民の意見を
聴く会では、ほぼ
全ての意見表明者
が即ゼロ

団体等の提言 NGOや消費者団体が支持

国民的議論に関する検証会合

「大きな方向性として、少なくとも過半の国民は原発に依存しない社会の実現を望んでいる」

3年前と何が変わったか？

- 原発の再稼働の遅れ。
- 東芝問題。原発輸出も進まず。
- もんじゅ廃止。
- 省エネも進み、電力不足なし。
- 再エネの増加（2015年度14.5%）
特に地域主導での再エネ普及
- パリ協定の採択・発効
- ダイベストメント、脱石炭の流れ
- 世界の脱原発（ベトナム、台湾、韓国など）



現実に基づき
エネルギー基本計画も
見直しの必要あり

一方、電力業界や一部の産業界は、
原子力「20～22%」実現のため新增設の明記を求めている。

2017~2018年エネルギー基本計画見直し

(経産省審議会) 総合資源エネルギー調査会 「基本政策分科会」

- ・ 2030年に向けた議論
- ・ 2014年のエネルギー基本計画の見直し
- ・ 2050年も視野にいれながら、2030年のエネルギーミックスに向けて
- ・ 2018年度にまとめ

(経産大臣の勉強会) 「エネルギー情勢懇談会」

- ・ 2050年に向けた議論
- ・ パリ協定：2050の温室効果ガス目標提出の必要あり（2020年までの早期に）
- ・ 日本は2050年に80%削減を掲げているが、どうやって達成するか？
- ・ 2017年年度末に取りまとめ

環境省（2017年3月）
「長期低炭素ビジョン」

経産省（2017年4月）
「長期地球温暖化対策プラットフォーム報告書」

外務省
「気候変動に関する有識者
会合」
2018年4月に提言予定

総合資源エネルギー調査会基本政策分科会

- 坂根 正弘 (株) 小松製作所相談役 (分科会長)
- 秋元 圭吾 (公財) 地球環境産業技術研究機構システム研究グループリーダー
- 伊藤 麻美 日本電鍍工業 (株) 代表取締役
- 柏木 孝夫 東京工業大学特命教授
- 橘川 武郎 東京理科大学イノベーション研究科教授
- 工藤 禎子 (株) 三井住友銀行 常務執行役員
- 崎田 裕子 ジャーナリスト・環境カウンセラー NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
- 武田 洋子 (株) 三菱総合研究所 政策・経済研究センター副センター長、チーフエコノミスト
- 辰巳 菊子 (公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会常任顧問
- 寺島 実郎 (一財) 日本総合研究所会長
- 豊田 正和 (一財) 日本エネルギー経済研究所理事長
- 中上 英俊 (株) 住環境計画研究所代表取締役会長
- 西川 一誠 福井県知事
- 増田 寛也 野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授
- 松村 敏弘 東京大学社会科学研究所教授
- 水本 伸子 (株) IHI 常務執行役員 調達企画本部長
- 山内 弘隆 一橋大学大学院商学研究科教授
- 山口 彰 東京大学大学院工学系研究科教授

8/9 基本政策分科会の議論



世耕大臣

まだ3年しか経過しておらず、計画の骨子を変える段階にはないのかなと考えていますが・・・

2030年に非化石電源44%を目指していくうえで、現在再エネ15%、原子力2%でバランスが悪い。原子力については安全性と信頼性を高めていくことが重要。情報発信しながら対話の場を・・・



原子力政策の明確化を。中間貯蔵については、国が前面に立つ必要がある。また、原子力をささえる人材育成基盤の整備を。

再エネは高い。原子力の稼働スピードは遅い、リードタイムが長い。可能な限りはやく議論を始める必要がある。



省エネはかなり可能性もあり重要。CO₂を削減していかなければいけないが、化石燃料がなくなった時に、とても今の再エネだけでは生きられない。



エネルギー情勢懇談会

- 飯島 彰己 三井物産株式会社代表取締役会長
- 枝廣 淳子 東京都市大学環境学部教授、有限会社イーズ代表取締役
- 五神 真 東京大学総長
- 坂根 正弘 株式会社小松製作所相談役
- 白石 隆 アジア経済研究所所長
- 中西 宏明 株式会社日立製作所取締役会長
- 船橋 洋一 一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブ理事長
- 山崎 直子 宇宙飛行士

8/30 エネルギー情勢懇談会の議論

全体には、2050年長期の不確定要因、不確実性に対応するために、原子力も含めて可能性を持っておくべきという方向。



環境・地域・市民の視点が重要。地域の視点が抜けている。完全オフグリッドで自立している需要家もある。女性、若者の議論への参画が重要。

代替エネルギーがあれば原発に反対だが、現状では再エネがその役割を担うのは難しい。



原発の今後の方向性が政治的・社会的に整理できていない。6年経過しても依然として50～60%の国民が再稼働反対を表明している。



火力は再エネの調整電源としての役割が大きくなっていくが、その場合、稼働率が低く、コスト面からどう維持していくか考えていく必要がある。石炭火力の新設は厳しくなってくる。

欠けている視点

現状の議論は・・

- いまだに中央集権型エネルギー構造がベース
- 「資源が乏しい日本」と「世界」の状況

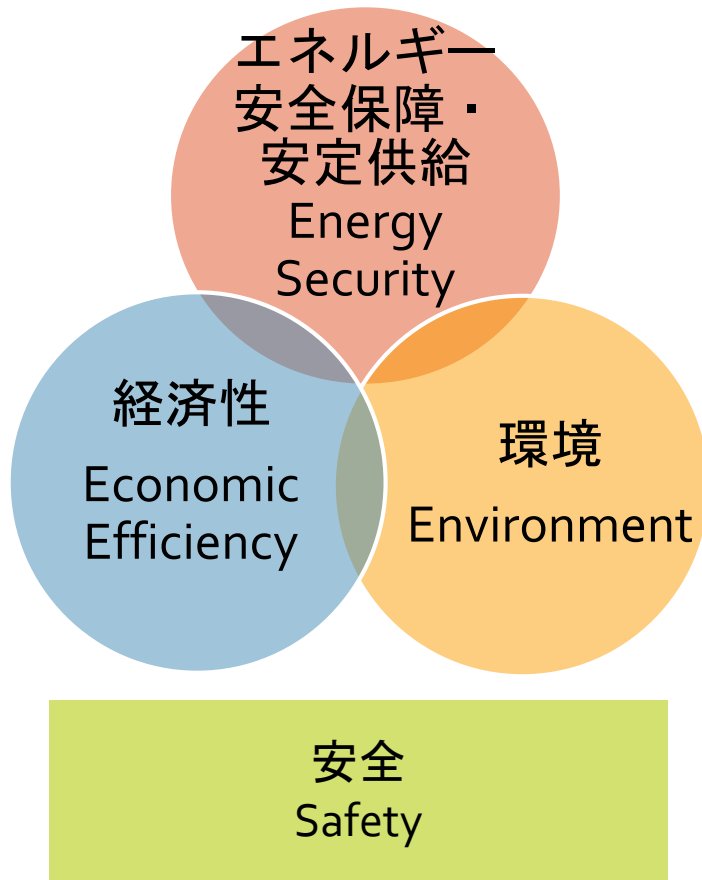
震災後の大きな変化にふれていない

- 地域での再エネ活用・地域づくり、域内循環
- 自治体の視点
- 再エネビジネス・サステナビリティを重視しはじめた企業

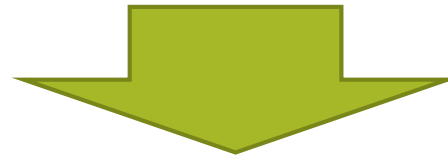


「地政学上のリスク」や「燃料価格上昇」の影響は小さく
気候変動対策は省エネ・再エネで

エネルギー政策において重要な 「S + 3 E」の観点



S + 3 E
= 持続可能性
の観点で考えれば



- 原子力は不要
- 日本の豊かな資源、技術を生かして省エネ・再エネ社会へ

真のS + 3E

原発も石炭火力も「安全」では
S ない

地域分散型
エネルギーシステム
実現のために
自治体・地域の
果たす役割は
大きい

経済的に合理性
があるのは
再エネ・省エネ
雇用拡大にも
E

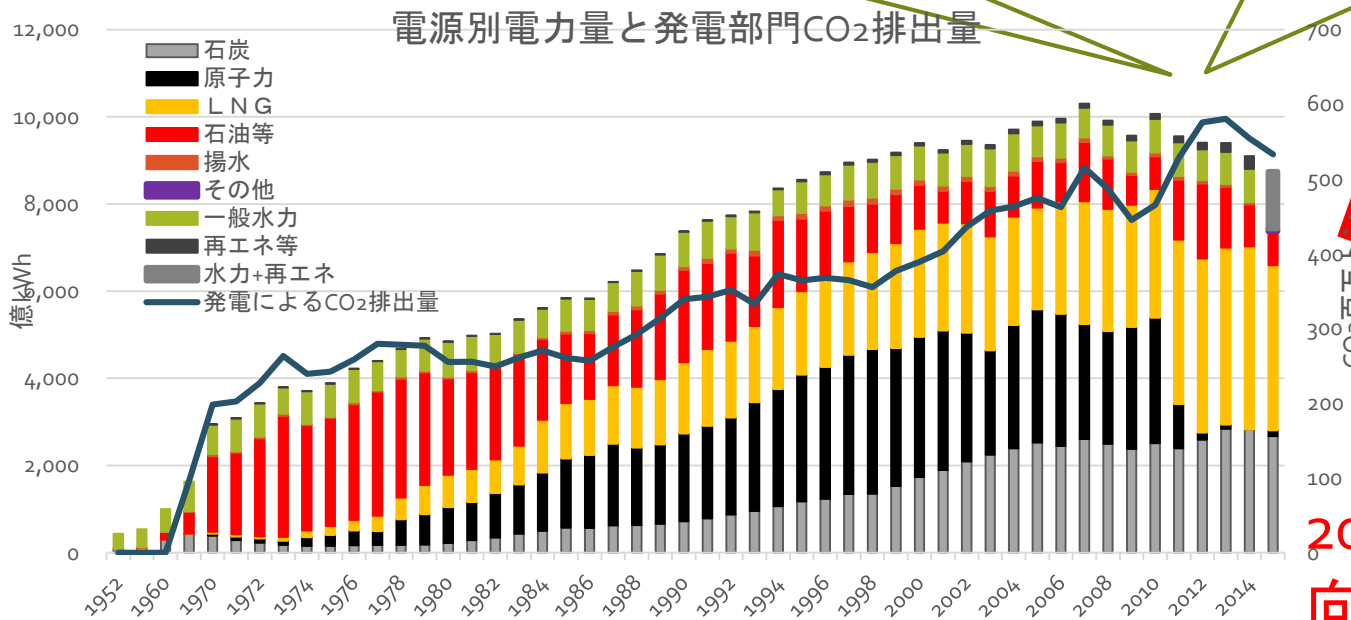
E
CO₂も、汚染
物質も、放射
能も出さない
エネルギーへ

地域の豊かな
再エネ資源の
活用を
E

持続可能な未来のために どうする!?これからの日本のエネルギー

2012年以降
「原発稼働ほぼゼロ」
が続いている

2012年以降再エネは
増えている
2010年度：約10%
⇒2016年度：約15%



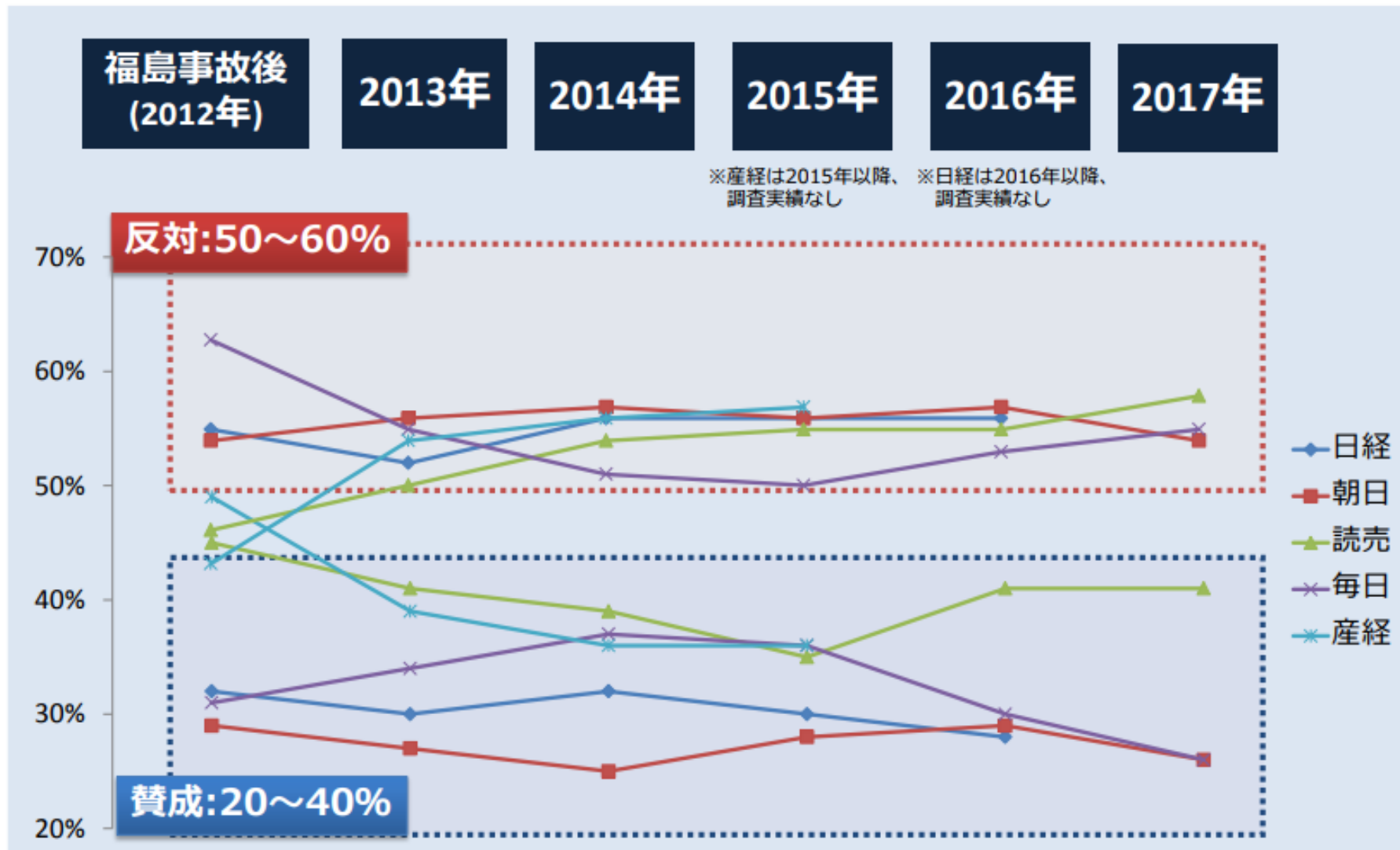
経済産業省、資源エネルギー庁等データをもとに原子力資料情報室作成

2030年、2050年に向けて大幅省エネ
再エネ中心社会へ

無視できない変化も

経済産業省資料

【変化4-3】原発再稼働に関して、賛成対反対は1対2。我が国では社会的信頼回復が最大の課題。



○原子力に対する社会の見方は、国ごとにどう違っているか？

「世論」が大事！！

○市民の声を可視化

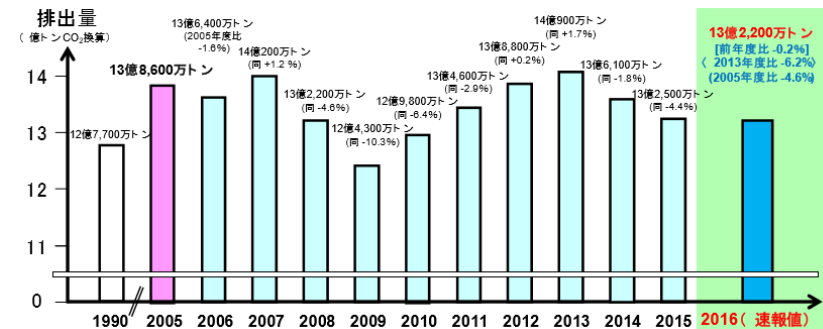
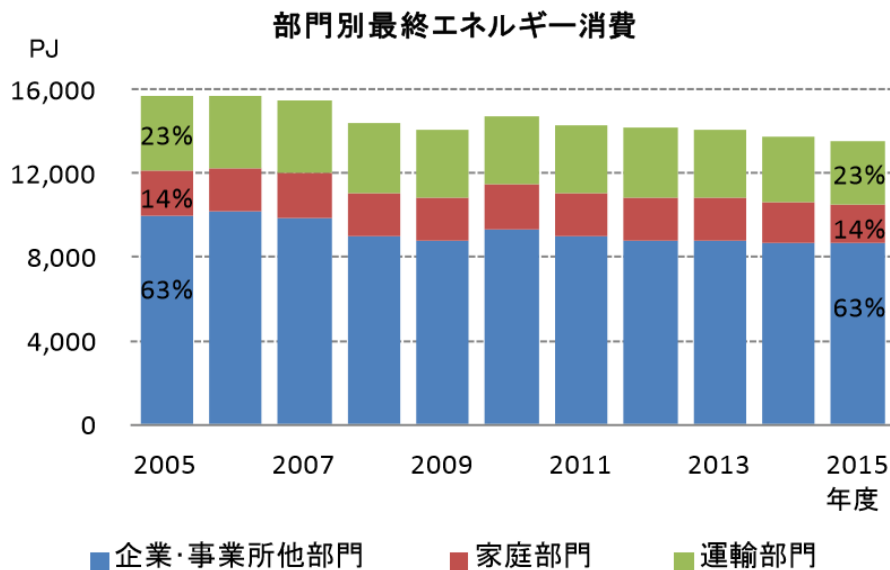
- 資源エネルギー庁「ご意見箱」への投稿
- 緊急署名「原発ゼロで日本の未来を切り拓く」
<http://ene-rev.org/>

○ツール

- リーフレット「どうする？これからの日本のエネルギー」各地で活用中！現在8万枚制作。
- 原発エネルギー政策「よくある疑問¹²」とりまとめ中

2012年度以降電力需要は減少

- 最終エネルギー消費は5年連続で減少
- CO₂排出量も減少 原発稼働はほぼゼロ！



注1 2016年度速報値の算定に用いた各種統計等の年報値について、速報値の算定時点で2016年度の値が未公表のものは2015年度の値を代用している。また、一部の算定方法については、より正確に排出量を算定できるよう見直しを行っている。このため、今回とりまとめた2016年度速報値と、来年4月に公表予定の2016年度確報値との間で差が生じる可能性がある。なお、確報値では、森林等による吸収量についても算定、公表する予定である。

注2 各年度の排出量及び前年度からの増減割合(「2005年度比」等)には、京都議定書に基づく吸収源活動による吸収量は加味していない。

図1 我が国の温室効果ガス排出量 (2016年度速報値)

新電力のシェア

新電力シェアの推移

新電力のシェア
12%以上に



(出所) 電力調査統計 ※ シェアは販売電力量ベース (自家消費、特定供給を除く)

シェアの 上位は

(2017年8月電力
需要実績によ
る)

(株)エネット

(株)F-Power

テプコカスタマーサービス大阪瓦斯(株)

J X T G エネルギー(株)

丸紅新電力(株)

東京ガス(株)

オリックス(株)

K D D I (株)

サミットエナジー(株)

大阪瓦斯(株)

(株)エナリス・パワー・

マーケティング

日本テクノ(株)

ミツウロコグリーンエ

ネルギー(株)

ダイヤモンドパワー(株)

イーレックス(株)

エネサーブ(株)

伊藤忠エネクス(株)

電力自由化の負の側面

世界の流れ



石炭火力推進

「高効率化」、新增設

CO₂が大幅に増えるが・・・

「非化石電源」で相殺



原発も推進

再稼働、事業環境整備、40年超運転

省エネルギー

再生可能エネルギーの促進

COP21の合意

日本では、
再エネ+原発が
非化石電源
2030年に44%へ

現在の状況は

いままでの
地域電力会社

大企業
などの
電力会社

パワ-
シフト

再エ
ネ
重視

再エ
ネ
重視

既存のつながり
値引き

宣伝力
セット割

販売電力量で12%





再エネ供給を目指す電力会社 紹介中！ [HTTP://POWER-SHIFT.ORG/](http://POWER-SHIFT.ORG/)

自治体電力会社

泉佐野電力



とっとり市民電力



地域電力会社

もっと地元が好きになる。

水戸電力

MITO Electric Power Company, Incorporated



湘南電力



DENKEN group

新電力おおいた

Green People's Power



長崎地域電力

powered by ジョースロ



再エネ事業者（地域横断） ほか



ソーシャル・エネルギー・カンパニー

みんな電力



生協系

株式会社

パルシステム電力 生活クラブエナジー



「自然エネルギーを重視する電力会社」 パワーシフト・キャンペーンが重視する点

未開示の事業者も

電源構成など
情報開示

再エネ/FIT電気
の調達に苦勞する
事業者も

再エネを重視
して調達

原発・石炭火力
は
調達しない

市民・地域
の再エネを
重視

規模が小さいため
手間がかかる

大手電力の
子会社でない

* 再エネは、持続可能で、地域の合意を得たもの

世界の企業は確実に再エネシフトへ

RE 100



RICOH



COMMERZBANK



BMW GROUP

facebook

Goldman Sachs

Google

Adobe

Johnson & Johnson
FAMILY OF COMPANIES



× NO! 化石燃料
ダイベストメント

ノルウェーなど年金基金
銀行
大学
都市
宗教法人
財団 など世界に広がる

日本でもさらに
進めるために・・・!

パワ-

シフト

パワーシフトする企業・事業所

- ①自社の工場・店舗・本社ビルなどの電力を切り替え
- ②お客様など周囲の人にパワーシフトをともに呼びかけ

LUSH FRESH
HANDMADE
COSMETICS

鈴廣みまぼこ



SAYEGUSA
SINCE 1869 BINZA

avanti inc.



ソーシャル・イノベーション・マガジン!

alterna

自由の森学園 中学校・高等学校
JIYUNOMORI GAKUEN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



鳥取県土地改良
事業団体連合

メサ
グランデ

café Slow

楠学園
(フリースクー
ル)



いまじかんハウス



宝泉寺 (愛知) 見樹院 (東京)

